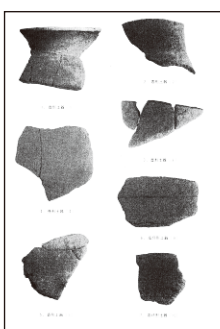
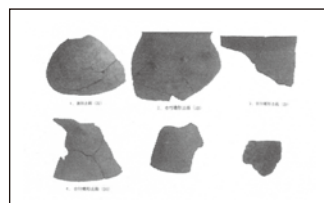


# 旧高足村見どころ



**西①** 西上遺跡 (にしのかみいせき)  
昭和56年宅地造成中に現西上公園  
付近より弥生式土器数十点が発見  
される。



**西④** 逆鉾社 (さかほこしや)  
1657年 (江戸時代) 創建。  
吉原弥次右衛門が芦原新田  
を開拓するにあたり、浜道  
町の逆戈神社より分霊を受  
けたことに始まる。



**西⑤** 奥谷寺 (おうこくじ)  
1695年 (江戸時代) 創建  
当初は奥谷庵。臨濟宗。  
芦原新田開拓者「吉原家  
三代弥次右衛門」により  
開基。



**西⑫** 松井町神明社 (まつい  
ちょうしんめいしゃ)  
1530年 (室町時代) 伊勢神  
宮の御分霊を当地近くに仮  
安置したことが創祀。明治  
9年11月大山町より移転。



**西⑬** 東光寺 (とうこうじ)  
曹洞宗。  
豊橋新吉龍坊寺末寺。  
寺子屋から明治時代に草間  
村会仮会議場となる。



**西⑭** 大應寺 (だいおうじ)  
曹洞宗。  
1572年 (室町時代) に真言  
宗寺院より再興改宗された。  
当初は昭和池の辺りにあり、  
昭和5年に移転されている。



**西⑳** 高師町神社 (たかし  
ちょうじんじや)  
1949年 (昭和24年) 創建。  
高師町の発展を祈り、同町  
官有地に小祀が祀られたが  
改築のため現在地に仮安置  
されている。



**西⑰⑱** 高師緑地公園の変遷  
明治41年第15師団誘致後は馬草倉庫が置かれる。太平洋  
戦争末期にはガンソリン代替品として松根油を採取する。  
戦後、豊橋市指導農場が置かれる。(写真:正門跡の石垣)



現在の公園内には、緑地、野球場、馬場、遊具広場の他  
田村俊子と鈴木悦の碑や丸山薫の歌碑もある。(写真下)



江戸時代吉田藩御料林として維持されてきた地は  
明治37年ロシア俘虜(ふりこ)収容所が置かれる。(写真下)



**東③** 高師神社 (たかしじんじや)  
1392年 (室町時代) 白山社と  
して創建。1722年 (江戸時代)  
に西高師町津森に創建された  
進雄社を1934年 (昭和18年) に  
合併し、高師神社となる。



**東④** 高林寺 (こうりんじ)  
1573年 (室町時代) 創建。  
浄土宗。  
明治6年まで寺子屋を開設。  
寺宇ともいえる「涅槃像 (掛  
け軸)」「山門」などがある。



**東⑥** 円通寺 (えんつうじ)  
1336年 (鎌倉時代) 創建。  
臨濟宗。  
明治6年まで寺子屋を開設。  
古くから当寺の観音様には  
武家や庶民から厚い信仰が  
寄せられてきた。



**東⑤** 小谷古窯 (こたにこよう)  
昭和51年梅田川流域の遺跡分布を調査中に現小谷池付近より  
窯壁と遺物が発見される。  
平安時代の古窯址とされる。



**東⑦** 勝地高師山 (しょうちたかしやま)  
高師小学校の南門を入ると、すぐ右手に「勝地高師山」と  
書かれた標柱と、黒田清綱が大正天皇の即位を祝って  
詠んだ歌碑が建っている。



「松風の声いやたかし高師山  
わけてもけふは  
千代よはふらむ」

**東⑧** 日吉神社 (ひよしじん  
じや)  
1301年 (鎌倉時代) 創建。  
日吉大社と白山社 (滋賀県)  
に縁をもつ神社。明治20年  
に浜道町藪合にあった社地  
を現在地に移転。



**東⑨** 紫雲寺 (しうんじ)  
1448年 (室町時代) 創建。  
当初は紫雲庵。臨濟宗。創建  
時より東観音寺 (小松原町)  
との縁が深い。



**東⑩** 逆戈神社 (さかほこじんじや)  
672年～685年 (大和～奈良時代) 創建。  
源頼朝が当社を篤く崇敬した頃は、八逆戈大明神とされ  
ていた。頼朝公の駒止め石、鞍が保存されている。



**東⑰** 高蘆神明社 (たかあし  
しんめいしゃ)  
674年 (大和時代) 創建。  
高足御厨の繁栄を祈って伊勢  
神宮 (内宮) よりお迎えしたと  
される。高足村の鎮守として、  
村内5社の筆頭格とされた。



## 郷土が誇る三人の偉人 (年代順)

**1、吉原弥次右衛門** よしはらやじえもん 新田作りに新手法を提案し、各地の新田作りブームに貢献。工夫と努力の人。芦原村の租。

芦原はもと梅田川の河口の中にあつて、沼のような状態で葦が生い茂り、荒れた沼地であつた。寛永年間 (1624～1643年)、時の吉田藩主がこの地を開拓しようとしたが、たびたびの津波や洪水で失敗。その後、永らく放置されたままであつた。明暦2年 (1656年) 遠江の国、吉原弥次右衛門重次は一族と相談して、藩主小笠原忠知の許可を得て、この地の開拓に着手した。しかし、他の地域からの反対や自然災害に遭うが新しい「杓 (いり) 手法を提案する等で元禄3年 (1690年) 初めて大規模な新田、田を20余町歩、畑10町歩を完成した。これを芦原新田と名付け、ここに芦原村が始まった。その間3代35年を要した。その後、農地を増やす為、各地で新田作りが盛んになった。初代弥次右衛門の発願によって新田開発の始めの時期に逆鉾社が建てられ、新田完成後、三代目弥次右衛門が奥谷寺を創建した。

**2、庄屋源吉** しょうやげんきち 自分の身を捨て、人の為に尽くし、短い生涯を終えた、利他の人。



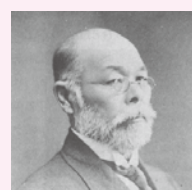
庄屋源吉の碑 (円通寺)

宝暦6年 (1752年) 高足村に生まれる。18才の時、村民の推薦を受け庄屋となつた。その頃は天災続きで大早魃、大凶作が村人を苦しめていた。源吉は吉田藩に年貢を減らすよう執拗に嘆願を続け、年貢軽減に成功した。しかし、ご法度破りとして死罪を命ぜられた。村民は源吉の助命運動を起こし、藩に嘆願したので死罪はゆるされた。ところが源吉は長い牢獄生活から重い病氣にかかり、浜道町船原で25歳の若さでなくなった。円通寺では毎年旧暦7月1日に校区の人々が追善供養をおこなっている。

**3、吉原祐太郎 (1860～1936)** よしはらゆうたろう 吉原弥次右衛門の子孫。英知、先進の人。



吉原祐太郎の碑 (円通寺)



吉原祐太郎

東三財界の長老として、又県の政界財界の重鎮でもあつた。藍綬褒章を授与。(以下、芦原町の芳賀不二男氏談) 芦原町のカワベ園芸さん、馬場さん辺りが氏の住居跡。人柄については、何事も自分でやって見て納得の上で人に教えるタイプの人でした。自宅に自己資金でガラス張りの温室3棟を建てメロン・ぶどう栽培に取り組んだり、庭に池を作り鯉、鮎の養魚試験を行った。又、納屋では養蚕試験を行い、幅広く研究した。

高師高等尋常小学校 (今の高師小学校の前身) で農村幹部青年に温室技術を伝えた。特に農村子弟教育に熱心であつた。渥美郡の農政も当校で。今の本郷地区市民館は、その当時の畑。下記は氏の年表。

和歴 (年号)	西暦	年齢	功績内容	(参考) 時代の背景
(万延元年)	1860	誕生	渥美郡高師村大字高師字芦原で誕生。	桜田門外の変。(1867年明治維新)
明治12年	1879	19	郡内有志と農業団体を興す。	エジソンが電球を発明
19年	1886	26	愛知県会議員当選	
29年	1896	36	三河製糸株式会社取締役に就任	(1904年日露戦争)
45年	1912	42	衆議院議員当選	清朝滅亡、中華民国成立
大正13年	1924	64	渥美電気鉄道創設に参加、初代社長	(1923年関東大震災)
昭和2年	1927	67	天皇陛下行幸の砌、産業功労者として単独拝謁の光栄に浴す。	(1931年満州事变)
11年	1936	76	3月2日没。	2・26事件 (1937年日中戦争)

上記 政界、産業界以外の功績は下記のものであつた。

分野別	功績内容 (芦原町の芳賀不二男氏談)
土木	地区市民館の南の通りを県道として特用線 (軍が高師原の演習へ又岩屋へ行くのに使用) を設置した。又、梅田川を堰きとめての取水工事として水路 (今でも在り) を設置した。
農業	教員住宅を建て近くに温室のメロン栽培をはじめ、農業の先端技術の研究をした。
教育	県の学務委員 (今の教育委員会) も務める。農業技術の教育に尽力した。



旧高足村歴史探訪

豊橋いきいき健康マップ

ウォーキングマップ

ふるさと再発見



この地は昔、江戸時代末頃まで高足村と呼ばれた。北に高師緑地公園。(昔は吉田藩御料林で、しかも市内で一番広い公園である。約24ヘクタール。国道259号線が出来て公園は二分されている。) 南には梅田川が流れていて、緑と水に恵まれた自然環境の優れた地である。更に、歴史・文化財が数多く点在している。このような、素晴らしい校区をウォーキングマップ片手に楽しく歩いてみましょう。



**西コース**  
約 5 km  
消費カロリー  
195~235kcal  
(体重50~60kgの場合)

**東コース**  
約 7 km  
消費カロリー  
275~329kcal  
(体重50~80kgの場合)

和暦(年)	西暦(年)	所在名	コースNO
文政 8	1825	高師神社	東③
天保 2	1831	奥谷寺	西⑤
天保 4	1833	浜道	東⑤
天保12	1841	高蘆神明社	東⑯
弘化 3	1846	東光寺	西⑮

どの常夜灯にも「村中安全」と刻み込まれている。当時、自然災害による飢饉、一揆、外国船の来航等不安定な世情があり、村の安全を祈願してお金を出し合って奉納したと言われている。